

かみがね

第165号（平成26年4月20日）



稲積神社「正ノ木祭」

式年遷宮県本部解散式……………	2	神殿例祭、祈年祭……………	11
神宮大麻頒布関連……………	3	女子神職会、青年会……………	12～13
神宮初参り……………	4	支部だより……………	14
一都七県神社庁・神政連関連……………	5	今後の予定、祭典日程……………	15
神政連主催事業関連……………	6	西嶋神楽「NHK放送」……………	16
まんが古事記「てんそんこうりん」…	7～10		

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神宮式年遷宮奉賛会県本部解散式並びに感謝の集い

庁長 根 津 泰 昇

去る一月二十九日神宮式年遷宮奉賛会山梨県本部の解散式並びに感謝の集いがベルクラシック甲府に於いて開催され、御来賓としてお招きした神宮大宮司鷹司尚武様御名代神宮禰宜亀田幸弘様、財団法人神宮式年遷宮奉賛会会長豊田章一郎様御名代総務部長小川優様、神社本庁統理北白川道久様御名代副総長小申和夫様の御臨席を仰ぎ、厳粛且つ厳かに開催されました。

振り返りますと、この度の奉賛活動は、山梨県神社庁舎の建築募金と時を同じくしておりましたので、神宮奉賛活動をどのように展開すべきか、心を痛めたことが思い出されます。全国からは目標額を上回る報告が次々と伝えられるなか、県本部としてどう対応すべきか苦慮致しました。

募金期間も終盤に差し掛かる時期に、関係者各位の御努力により目標額を超える支部が出てまいりました。一般企業募金に關しても御理解、御協力を賜り順調に運ぶ事が出来ました。結果的には目標額が達成された事は、関係各位に感謝の気持ちです。これも神宮さんの神慮

の御陰と存じます。

式年遷宮は、諸殿舎を造り替へ尚且つ御装束神宝の一切を新たに御作りし、新しい正殿の御神座にお遷り願ひ、常に初々しく常若の精神を伝承するものであります。その精神に思いを寄せる人々が数多くいらつしやるからこそ、第六十二回の歴史が刻まれている事と存じます。

この解散式で奉賛活動に御尽力された方々が受賞の栄に浴されました。「地区本部設立の運営に尽力された」方二十名。「地区本部運営に貢献された」方三十名。「地区本部及び支部役員として奉賛事業に貢献された」方七十九名。「地区本部事務局で貢献された」方四名。「奉賛活動に努力された支部」二支部であります。また陰ながら御尽力頂いた方々も数多くいらつしやいますことも御報告いたします。

この奉賛活動に御尽力頂いた方々の精神は、貞永式目御成敗式条に「神社を修理し祭祀を專にすべきこと」と記されています。又「神は人の敬いによりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」（いかなる神も、人

間の崇敬をうけてこそ、その御威光を輝かすのであり、御神威を輝かすのであり、御神威を高めるのは人の敬いの力である。しかし、その人が人としての運、人としての生命を与えられるのは、神の徳によつてである。ここに見られるように、神社の修理、社領の保護、祭祀の厳修の精神が根強く日本人の心に残っていた証でしょう。永年の御尽力に敬意を表します。

解散式の後は、会場を移し「感謝の集い」が開催されました。第六十二回式年遷宮を振り返る「感謝の集い」でありますので、永年の労をねぎらうなかで、第六十三回の式年遷宮に向けて第一歩を踏み出す会でもありました。

昨年の新穀感謝祭には、二千名近い参宮団を結集する事が出来ましたので、本年も多くの方々をお誘ひし、参宮団を結集することを参加者全員が認識し合ひ、和やかな雰囲気の下ろされました。今後とも御協力を御願い申し上げます。



神宮大麻頒布終了祭並に頒布春季推進会議

東八代支部 支部長 志 村 重 治

去る三月五日首標の頒布終了祭、並に推進会議が伊勢の地において行われました。当山梨からは、根津庁長、飯田参事、そして私が山梨県の神社庁支部を代表し出席いたしました。

当日午前十時より内宮神楽殿において神宮大麻頒布終了祭が斎行されました。神社本庁統理の代理として田中恆清神社本庁総長が御臨席され、全国各都道府県から神社庁長始め、頒布推進関係部署代表者等約百六十名が参集し、神宮の鷹司大宮司が斎主のもと斎行。高城少宮司が祝詞を奏上し、大宮司が玉串を奠じ、奉拝八度拍手両端がなされ、次いで神社本庁統理代理田中恆清神社本庁総長が玉串を奉奠。これに習って全国参列者が列拝。次いで神楽の奉納。参列者一同一拝を捧げ無事に神宮大麻頒布終了祭を終えました。

退出し殿外に出ると大降雨。雨の降りしきる中、次の頒布推進会議会場となる神宮会館へ用意されたシャトル・バスに分乗し移動しました。定刻十二時三十分より神宮会館大講堂において、平成二十五年度の神宮大麻頒布春季推進会議が開催されました。次第に基づき、国歌斉唱、神宮大宮司挨拶、神社本庁統理代理田中神社本庁総長が統理挨拶文を代読された後、議事に入りました。議長には小串神社本庁副総長が選任され、議事がすすめられました。議題は

- 一、平成二十五年度神宮大麻暦交付数について
- 二、平成二十五年度神宮大麻暦頒布数について
- 三、神宮大麻暦前三ヶ年頒布数について
- 四、三ヶ年継続神宮大麻都市頒布向上計画(案)について

であり、事務局である神宮より、ここ数年に亘り大麻等減体傾向にある報告と、又増体に向けての向上計画(案)の提案もされました。

質疑に入り各県より、増体運動に取組む前向きな提案、要望等活発な意見交換がされました。議長より採決。満場一致の賛成を得て大麻等頒布向上に取り組んで行く事を決議、午後一時三十分閉会しました。

神宮大麻頒布実績、今年度の頒布に關しての分析

平成二十五年度大麻並曆頒布実績表

平成二十六年一月

支 部	小 大 麻		中 大 麻		大 大 麻		大 麻 合 計		郷 土 曆	
	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減
甲 府 支 部	17,240	+ 40	1,437	+ 34	196	- 11	18,873	+ 63	500	- 100
東 山 梨 支 部	13,465	- 87	347	+ 17	176	+ 3	13,988	- 67	380	- 10
東 八 代 支 部	11,250	+ 400	420	0	95	+ 3	11,765	+ 403	445	0
東 南 支 部	9,272	- 66	569	- 12	251	- 1	10,092	- 79	1,200	- 50
峡 南 支 部	16,152	+ 313	818	- 18	50	+ 14	17,020	+ 309	660	+ 10
峡 北 支 部	11,967	- 113	346	- 35	49	- 1	12,362	- 149	1,250	+ 5
南 都 留 支 部	18,031	+1,254	3,739	+ 222	860	- 31	22,630	+1,445	7,850	+1,400
北 都 留 支 部	3,570	+ 50	4,850	- 19	205	- 22	8,625	+ 9	1,810	- 70
神 社 庁 扱	1,301	+ 1		0		0	1,301	+ 1		
合 計	102,248	+1,792	12,526	+ 189	1,882	- 46	116,656	+1,935	14,095	+ 1,185

本年度は、遷宮の年というところもあり増体が見込まれたが、全国では二十五県で減体、頒布総数は約七三、〇〇〇体の減体となった。このような状況の中、本県は一、九三五体増と増体数では全国第二位となった。八支部中五支部が増体となり、特に南都留支部の一、四四五体の増体は際立っている。本年度の大麻頒布総数一一六、六五六体という数は、近年の毎年減体している状況の中では、平成二十一年度(一一六、四七七体)の状況まで持ち直したということになる。

前回遷宮の平成五年度では、一、〇〇四体の増体、翌年平成六年度は八四〇体の増体となったが、平成七年度になると急激に約一、八〇〇体もの減体となっており、本年度(平成二十六年)・来年度(平成二十七年)が大麻増体、減体の抑制にとって重要な年となることがかかる。

神宮初参り

峡南支部 副支部長

深澤哲夫

昨秋、第六十二回式年遷宮遷御の儀が終わって初めての正月、神社庁恒例となりました神宮初参りが、一月二十一日から三日間の日程で開催されました。

一日目、神宮。二日目、太宰府天満宮・九州国立博物館（国宝大神社展）・竈門神社。三日目、大分の春日神社参拝でした。私は、西高辻宮司の太宰府天満宮にお参りしたいと常々思っていましたので、初参りを楽しみにしていました。

初日の神宮は木の香も芳しく真新しい社殿は、すべてが輝いて心改まる清々しい参拝となりました。又神宮は平日にもかかわらず大勢の参拝者であふれ、昨年の遷宮と共に新しい斯界が、動き始めた様に感じました。二日目は雪の九州、雪の天満宮でした。太宰府天満宮は、菅原道真公の御墓所の上に社殿を建て、その御霊をお祀りしている神社です。この神社を代々お守りしているのが菅原道真公の直系の子孫である西高辻家、現在の西高辻信良宮司は道真公から数えて三十九代目となります。

天満宮は受験シーズンもあつてか、参拝者であふれていました。年間七百万人の参拝があると聞きました。

天満宮のおみくじは季節によって色を変えて作られていると聞いていました。そのことを西高辻宮司は、「神社というのは、五感を感じるところ、目から入ってくる感覚を含めて様々な色とか匂いとか、空気感を具現化していかなければならない場所、日本の色で季節感を感じて頂こうと思って始めた」と言われました。

この時期は紅梅の花の色に合わせて薄紅色、境内のおみくじ結びには満開の紅梅をみるように、薄紅色のおみくじが沢山結ばれていました。

又宮司は、神社の近くに駐車場を作らず、参道を通るように駐車を設けています。祈りの場所としての神社、門前で人々を迎える土産物店、共生できる街づくりを目指しているそうです。

次に西高辻宮司の新しい試みを紹介します。

兼務している宝満竈門神社創建一三五〇年を節目に、若者向きのおしゃれな御礼授与所を造りました。斬新な授与所は神社をはじめ周囲の自然とも違和感なく調和してよい雰囲気を感じ出していました。

今回の旅のもう一つの目的はこの九州国立博物館で開催の、「国宝大神社展」の拝観でした。神社界の原点であります全国神社の国宝の数々を、菅原道真

公、太宰府天満宮の緑の地での拝観は、なお一層歴史のおもみを感じ思いも新たに一つ一つ見て回りました。

一都七県事務職員者研修会

去る三月二十六日・二十七日、神奈川県湯河原町のニューウエルシティ湯河原に於いて、一都七県事務職員研修会が神奈川県神社庁主催で開催されました。この研修の目的は、神社本庁と各都県神社庁間の情報交換また事務の連携・効率化を図るものです。

本庁から講師として、渡貫竜也総合研究部研修課長心得を招き、明階位の取得規定の変更点、中堅神職研修制度について講義を頂きました。「階位」と「研修」という神職にとり重要な事項ということもあり、事務処理等の進め方で活発な意見が交されました。

また各神社庁の活動状況報告については、過年度の事業報告や新年度の事業予定についての説明がありました。



一都七県神社庁連合会総会

南都留支部

支部長 渡 邊 主 計

去る二月二十日、一都七県神社庁連合会総会が横浜駅前のホテルで開催された。県内に大被害を与えた豪雪の直後であり、その積雪量や交通機関のストッ

プ等、記憶に残る総会への参加でした。大雪による出席予定役員のカンセルの中、富士北麓から三名が出席し、唯一の開通道路である東富士五湖道路山中湖↓御殿場↓東名高速道路經由ホテルに到着し、甲府出発の大型バスと合流、役員九名の参加となりました。

午後二時からの総会では、開会儀礼に続き当番県の神奈川県神社庁吉田茂穂庁長が挨拶。第六十二回神宮式年遷宮を言祝ぐとともに、一都七県神社庁の連携を深め、神宮大麻頒布増体に努めたい等の話がありました。来賓を代表し、本社本庁統理(代理・田中恆清総長)、神宮大宮司(代理・高城治延少宮司)、長曾我部延昭神道政治連盟会長、黒岩祐治神奈川県知事の祝辞のち、有村治子参議院議員が国政報告と更なる理解と協力を求めました。次いで宣言が審

議され、昨年十一月に宮内庁が発表した「今後の御陵及び御喪儀のあり方について」を取り上げ、国民の負担に対しては御遠慮遊ばされぬようにしていた。次年度当番県の群馬県の奥澤庁長が挨拶の後、聖寿万歳を奉唱して閉会しました。

総会後には意見発表が行われ、本年は群馬県、山梨県、東京都、埼玉県より各神社庁代表が発表をし、それぞれの取組、活動への熱意が伝わってきました。本県の上文司理事は、境内

一都七県神政連三役会議

神政連山梨県本部

幹事長 渡邊平一郎

去る三月十二日・十三日に、群馬県伊香保温泉に於いて、関東一都七県神政連協議会が、昨年の神奈川県本部から引き継いだ群馬県本部が当番県として開催され、当県本部より佐々木本部長、飯田事務局長そして幹事長の渡邊が出席した。

午後二時より高井群馬県本部副本部長の開会の辞により始ま

環境改善の取組みについて報告し境内の保全方法の参考例を発表しました。夕刻には中華獅子舞の歓迎を受け、参加者交流会があり大いに親睦を深めました。翌日は、当初の日程を変更し東京都文京区の湯島天満宮へ正式参拝をしました。今年梅の開花が遅いとのことでしたが、紅梅の馥郁たる香りが境内に満ち、気持ちよい参拝となりました。浅草方面へ散策の後、大雪による道路状況を心配しつつ無事帰路につきました。少人数の参加でありましたが、実り多い二日間でした。

り、神宮遥拝、国歌斉唱、宣言、綱領唱和と通常の次第が続き、当番県本部の林本部長より昨年の参議院選挙の結果と安倍政権の誕生から政権運営まで概良く運んでいるとの感想を含めた挨拶があり、続いて当番県神社庁長の奥澤庁長より歓迎の挨拶があった。来賓を代表して、長曾

我部神政連会長が、昨年の参議院選挙での有村治子議員への応援の御礼と昨年末に安倍総理が靖国神社に参拝した時の感激やその後の中国、韓国の反応について又亡くなられた小野田寛郎元陸軍少尉の靖国参拝感とその生き方、最後に安倍政権に、特定秘密保護法、集団的自衛権容

認、憲法改正の三つを国防の三本の矢として期待するとの祝辞があり、他に来賓として湯澤事務局長、有村議員の松下秘書が紹介された。本来有村治子議員が来賓として出席し「国政報告」と題して講演を行う予定であったが急遽国会での質問が決まり、「歴史認識を中心に質問する」との報告があり欠席となった。国会質問当日のテレビ中継では報告どおり「歴史認識」の質問ではあったが、安倍総理の「河野談話を安倍政権でも踏襲する」と言う私としては不本意な答弁であった。野党議員ならともかく、我々を代表する有村議員がわざわざ好ましくない答弁を引き出す様な質問を何故急遽するのか納得がいかなかった。しかし韓国からこの答弁を評価するとの報道があり、日米韓の首脳会談が実現した。これが有村議員が欠席した真の理由であろうと思ふ。

さて、来賓祝辞の後議事に入り、湯澤事務局長より中央本部の活動報告があり、続いて地方本部の活動報告を次期当番県である山梨県本部より行った。次年度当番県本部の佐々木本部長の挨拶とその後の聖寿万歳を行って閉会した。

靖國神社参拝・国会議事堂等見学旅行

山梨県神社総代会 理事 奈良俊一

去る三月二十四日、神道政治連盟主催の靖國神社参拝・国会議事堂等見学旅行が行われ、早朝より県内八支部よりバス五台二百十名が参加した。

午前十時靖國神社・参集殿にて議会の忙しい中、有村治子参議院議員、長崎幸太郎衆議院議員、赤池誠章参議院議員、宮川典子衆議院議員、中谷真一衆議院議員、佐々木幸永神道政治連盟本部長、小方孝次靖國神社権宮司、湯澤豊神道政治連盟中央本部事務局長の挨拶の後、手水舎で身を清め、拜殿にて修祓、本殿へ進み衆議院各議員、佐々木幸永神道政治連盟本部長、根津泰昇庁長、中込豊秋総代会長の玉串奉奠に合せて拝礼し英霊を偲び感謝と追悼の念を捧げた。

拝礼後の黙祷は霊を慰め、その事績を後世に伝えるよう考える時であった。

今回は時間の都合で、遊就館の見学はできなかったが、若い人達が大勢見学に来ており、愛する祖国、故郷、家族のために尊い命を捧げられた英霊の「みどころ」や「御事蹟」を見学し、

大切な何かを学ぶことができる良い機会ではないでしょうか。

移動後、昼食を済ませ、自由民主党本部に移動して、赤池誠章参議院議員、山谷えり子参議院議員、堀内詔子衆議院議員、中曽根弘文参議院議員の挨拶と資料による活動報告があった。その後、赤池議員も一緒に徒歩で国会議事堂へ移動し、ロビーの展示物見学後、参議院見学ガイドにより、丁寧な説明があった。その後中央玄関を背に、記念写真を撮り、国会議事堂を後にした。

尚、三月二十日には神道政治連盟山梨県本部の代議員会後、関係者で山梨県護國神社を正式参致しました。



時局対策会議に参加させていただいて

北口本宮富士浅間神社 権禰宜 高阪雄次

この度、二月二十四日、二十五日の二日間にわたり開催された、神道政治連盟時局対策連絡会議に参加致しました。御講義を賜りましたのは、元内閣官房副長官の石原信雄先生、高崎経済大学地域政策学部教授の八木秀次先生、産経新聞社政治部編集委員の阿比留瑠比先生です。

今回は「時局問題を考へる」という主題のもと御講義を賜り、戦後激変した社会で初めて迎えた大喪の礼の際に直面した様々な問題についてのお話や、政治と天皇陛下のあるべき御関係についてのお話、また日本の海洋資源の豊富さと、それを狙う近隣諸国家についてのお話など、大変多くを学ばせていただきました。

ニュースや新聞から、今の日本は順調とは言えない状況であることを知りつつも、では一体何が悪いのか、また国の未来を明るいものとするにはどうすればいいのか、それがわからずただ暗澹とするだけでした。しかしこの度の御講義を拝聴し、ニュースや新聞で得られる情報は極々限られた僅かなものでしか

ないこと、またその報道姿勢は各社ごとに非常に偏りがあり、中立公平な情報ではないことを痛感致しました。ニュースや新聞から安易に得られる情報のみを鵜呑みにし、ただ流された生活をする事の危険性と、国家の一員として無責任であることを知りました。

自分はまだ社会に出たばかりであり、まずは仕事だけに励んでいればよく、政治のことはまだまだ考えなくてもいいと考えておりました。ですがこの度の時局対策連絡会議により、ただ暗澹とするだけの他力本願な姿勢ではなく、積極的に自ら国内外的ことを学び、日本が直面する様々な問題について、きちんと自分の意見を述べられる、一国民として政治に参加する姿勢が大切であることを知りました。

諸先輩方からすれば極めて幼稚な、一笑に付す程度の収穫ではございますが、会議に参加できたこと、僥倖と思っております。参加をさせていただきました、有難うございました。

まんがが古事記

てんそんこうりん (第四話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供

問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―

神社本庁内

電話 ○三―三三三九―八〇―一―

一冊 一二〇円

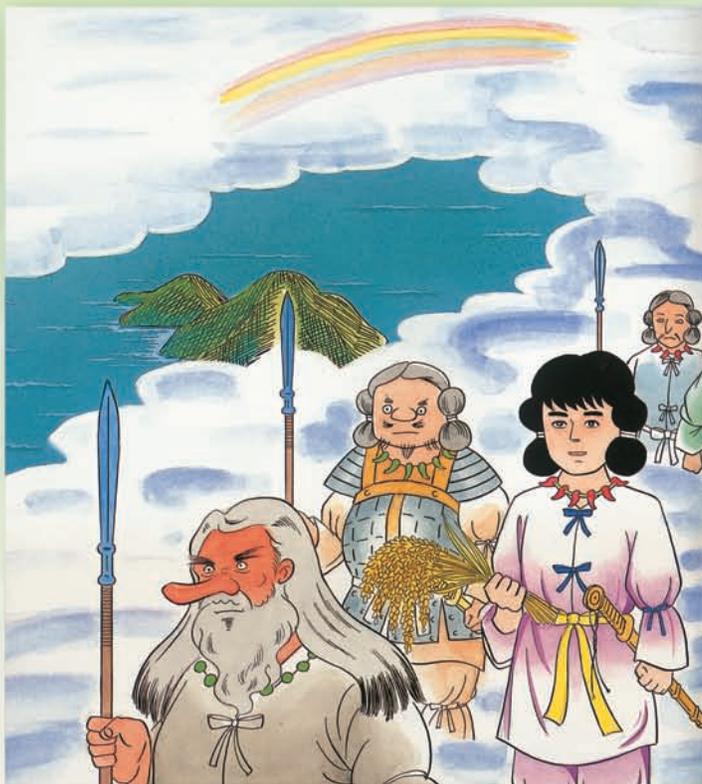
あらすじ

葦原中国は、
 天照大神が国造
 りをされていま
 したが、天照大
 御神さまは、こ
 の国をもつと豊
 かで、平和な国
 にされようと、
 瓊杵尊を天降
 らせることにし
 ました。

そこで建御雷
 神を使いとして
 葦原中国に赴か
 せ、天照大神に
 天孫の御子を天
 降らす旨を伝え
 ました。

天照大神には
 事代主神、建御
 名方神という息
 子がいまいましたが、
 この二人の息子が
 が納得するなら
 ば、国をたてま
 した。





今から一千三百年ほど以前に纏められた「古事記」は、わが国の古典のなかで最も古いものとされています。

稗田阿礼が天武天皇の命を受け、暗誦した神代からの伝承を和銅五年（七一二）に太安万侶が書き上げ、元明天皇に献つたものが古事記です。全部で三巻ありますが、このうち上巻が普通、日本の神話とよばれている部分で、ここには天地のはじまり、日本の国土が生まれる様子、神々の誕生、皇室が日本の国を治められるまでの話が豊かにつづられています。

此の度、漫画化した「てんそんこうりん」（天孫降臨）は、このなかにでてくる話の一つで、皇室の御祖先がこの葦原中国に高天原から天降り、この国を豊かにそして平和に治められていく様子を描いたものです。

味の神名をもった神さまです。尊は大御神さまより、高天原の稲を授かり、葦原中国の人々の食物とするように命じられました。このように私たちの祖先は稲作の起源を天孫降臨の神話によって語り継いできました。ここからも稲が日本人にとっていかに大切で、神聖な食物であったのかを、この物語は伝えていきます。

天皇さまは御即位にともない大嘗祭を御斎行になられますが、この大嘗祭は即位後に始めて行われる新嘗祭を特に大嘗祭と称され、鄭重に御奉仕になるものです。この折には全国から選ばれた悠紀の国、主基の国から収穫米が献まれ、天皇さまによって天照大御神さまにお供えされ、天皇さま御自身もお召しあがりなられます。

こうしたことから私たち日本人にとって信仰的にも、文化的にも大切な内容を伝えているのがこの話といえます。



※次号より「神武天皇」を掲載いたします。

神殿例祭

峡南支部 支部長 市川行治

昨年十一月十二日の役員会に於いて、一月二十九日の神殿例祭の副斎主を勤めるように指示されました。

慣例で、新任支部長が奉仕するとの説明がありました。

当日は、午後三時から東八代支部の奉仕による「新嘗祭」が催行されたため、副斎主の祭式を中心に拝見させて頂きました。

祭場の造りや、祓所の位置神饌等の配置等神社庁の神殿の特徴等大変参考になりました。

特に陪膳を勤めるに当たって、階段の途中三段目に待機し二段目に上がって神饌を供する事など神社庁の神殿特有の作りによる所だと思えます。

学生時代に、神社実習に行つたあとは、受持神社で祭典奉仕を行う際も一人での奉仕が多く、本務社で五人で奉仕するときも斎主を勤めています。

実務で副斎主を勤める機会は今までも、またこれからありません。

とは言つても、副斎主の所作を「神社祭式同行事作法解説」で改めて勉強し直す事にしました。



その中で生まれた疑問点等を深澤哲夫宮司に確認しながら、「十五所神社の拝殿」をお借りして、習礼も行いました。

こうして一月二十九日の「神殿例祭」を迎えたわけですが、多くの関係者の御参列を頂き大いに緊張致しました。

諸先輩の皆様からは、種々御指摘を頂きましたが、何とか勤めを果たせたのではないかと考えています。

この場をお借りして桃井講師を始め御指導頂いた諸先輩にお礼を申し上げます。

神殿祈年祭に御奉仕

峡南支部 副支部長 近藤政房

二月十三日、神殿祈年祭に御奉仕致しました。

当日は打ち合わせと習礼のため十一時集合。私の住む富士宮市から甲府へは精進湖を回るのが最短コースです。

時間之余裕を見て、八時頃に家を出ました。しばらく行ったところで、先週末の雪のため、チェーン規制。引き返して国道五十二号に回りました。

五分ほど遅れて神社庁到着。皆さんは既に仕度を始めておりました。

斎員は六人。深澤哲夫副支部長が斎主、歳の順で副斎主は私、そして、笹本恵、今村和弘、市川朋美に典儀を勤めて下さるのが、当峡南支部の市川行治支部長。

習礼は、雅楽奉仕者のやさしく厳しい視線を受けながら念入りに行いました。足の運びに戸惑うことが度々。結局、作法はすべてが、神様に対しての失礼の無い、おもてなしの心を形にしたものだど皆で再確認しました。

式は始まれば、ほとんど考える間もなく進行して行きます。普段体験することの少ない、雅



楽の実演による奉奏。心地よい音にともしれば心も和んでしまいがち。斎員の皆さんに助けられながらなんとか祭典終了。いくつの間違いもあつたとか聞きましたが、よく思い出せないう。やはり緊張していたのでしよう。皆さんに申し訳なく、つくづく普段の修行の足りなさを思い知らされる一日でした。

今年一年、気を引き締め直し、いくつになつても謙虚さと向上心を忘れないで頑張つて行こうと誓い、また雪の降ってきそうな帰途を急ぎました。

沖繩「甲斐の塔」慰霊祭を終えて

山梨県女子神職会 会長 津 金 八千代

去る一月二十七日(月)〔二十九日(水)にわたり、山梨県女子神職会に依る沖繩県「甲斐の塔」慰霊祭を執り行う為に、齋主津金八千代、副齋主網藏五十鈴、祭司土肥東宮、典儀上條節子会員等九名と山梨県敬神婦人会より乙黒夏恵会長等五名とご賛同下さった他十四名、そして今回山梨県神道雅楽会より秋山忠也会長等四名のご協力を頂き、総勢三十二名が参加致しました。

今回の慰霊祭は、数年前に女子神職会森田明美会員の「英霊の方々を忘れない為に」の篤い「思い」が「形」になりました。沖繩到着後、先ず沖繩県護国神社に伺い正式参拝をさせて頂きまして戴きました。今回の慰霊祭に際し護国神社のご協力により必要な祭具の絵



てを拝借させて頂きました。合わせて「御霊慰めの舞」の為に沖繩県護国神社の舞姫の方に来て頂く事になりました。又翌日の慰霊祭に向けての装束や、山梨産の神饌なども護国神社宛に先に送らせて頂きましたところ、何と有難い事に届いた神饌物を冷蔵庫で保管下さっておりました。お心遣い、ご配慮下さいました事に感謝申し上げます。

その後、波上宮参拝。宮司様自ら境内をご案内下さり、台風が多い沖繩では神社の瓦が丸く漆喰で固められているという話を伺いました。中国と日本の政治的狭間の中で、双方の文化を取り入れて琉球独自の文化を確立した王国。王の身内である君得大君の存在、それは古代の神への「祈り」と共に有った日本の原型を見たように思いました。

二十八日慰霊祭当日。「甲斐の塔」までの眺めは砂糖きび畑が続く一見のどかな田園風景に見えますが、かつては戦場と化した地に、まだまだ浮かばれぬ悲しい御霊の方々が大勢いらっ

しやる。今私達はその上に道路を造り家を造り生活している。過去と現在の間で考えさせられました。沖繩本島の南端、具志頭村の真青な空と、どこ迄も続く穏やかな海を見晴るかす高台に「甲斐の塔」慰霊碑は在りました。この穏やかな海が、波に打ち寄せられた屍で埋め尽くされたとは！想像を絶する当時は思い、この地で亡くなられた沢山の御霊様に対して只々胸が一杯になりました。祭壇には御霊の皆様にせめても、懐かしい味であろう故郷山梨の品々を供えさせて頂きました。慰霊祭齋行。修祓―齋主一拝―献饌―慰霊祭詞奏上―御霊慰の舞―玉串拝礼―撒饌―齋主一拝と山梨県女子神職会、雅楽会、参列者一同気持ちを一つにして齋行させて頂きました。

直会の後、護国神社に寄り御礼を申し上げ祭具の返却をさせて頂きました。二十九日参加者全員無事に帰路につく事が出来ました。

今回の慰霊祭を通して、個人の力ではどうにもならない御国の『時の定め』に従い、御国を思い愛しい人を思い戦禍に散った英霊の皆様方と沖繩の地で亡くなられた皆様方の悔しさを思いますと、尊い命を捧げられた

上に成り立つ今の豊かな日本で、何事も無く住まわせて頂ける事がどれ程有難いかが深く心に染み渡りました。現世に生きる私達が当たり前の日常の中で、もう一度どう生きる可きか改めて深く問われ、今回の事を通して沖繩で亡くなられた皆様と英霊の皆様のを忘れずに、今後も祈り続けさせて頂く事が神職の務めと改めて強く感じた次第でございます。

最後に、この慰霊祭に際し、神様の大きなお力の中で総て導かれ無事に沖繩での慰霊祭を齋行させて頂きました事を、大きく見護って下さった神様に感謝申し上げます。又、多面にわたりご支援ご協力下さいました方々に、会員一同心から御礼申し上げます。慰霊祭の報告とさせて頂きます。有難うございます。



神青会活動報告(北方領土返還要求運動など)

神道青年会 会長 藤原永起

青年会の会長に就任してより、早いもので一年が経過致しました。私自身は反省することばかりでございますが、この一年は各部を担当する副会長を始め各々部長が中心となり様々な事業に取り組みました。

本年最初の事業として、二月七日に北方領土返還要求運動を致しました。この日は日露通行条約の調印にちなみ、「北方領土の日」と定められました。この事に当時の先輩方が刮目し声を揚げ、以来山梨県ではこの活動に専念して参りました。後に山梨県県民会議の方々がこうした活動を注視され現在共に活動をしております。

早朝七時より甲府駅前にて北方領土返還を求めたビラを配り、午後よりは多くの国民に北方領土問題に関心を抱いてもらうべく甲府市内を街宣車にて広報活動をしました。

また、例年都内にて北方領土返還要求全国大会が開催されており、今年も安倍総理が本大会に出席され、この問題を解決しロシアとの間で平和条約を締結すべく交渉していくと決意され、政府と国民が一丸となり活動することが重要であると述

べられました。安倍総理は総理大臣として十年ぶりにロシアとの首脳会談を実現するなどこの問題に積極的に立ち向かわれております。我々のこうした活動がこの成果をなしたのではないかと受け止め、これよりも活動に邁進していきたいと思っております。

三月十九日には通年事業であった雅楽研修全五回が無事修了致しました。この事業は雅楽を理解し、新たな伶人を育成していくことが一つの目的でもあり

教化モデル神社報告

石和八幡宮 宮司 土橋 英

平成二十三年度より神社振興対策教化モデル神社の指定を受け、最後の三年目を迎えようとしている。これまでの二年間で行ってきた事業については以前にもご報告させていただいたが、境内地整備事業の一環として、つつじ花壇の造成と植樹を行ってきた。造成については第二期工事分も完了し、残り十メートル程の工事を進めている。完成している所には随時植樹を

ました。青年会の先輩でもあります神道雅楽会の先生方の丁寧な御指導により参加者が切磋琢磨し、最後には全員で「越天楽」を奉奏するまでに至りました。各管を熱心に御指導頂きました先輩方には心より感謝申し上げます、またこれよりも雅楽への関心を抱きつつ実践的な練習に励んで参りたいと思っております。

また、昨年末に開催致しました臨時総会に於いて、山梨県神道青年会創立六十五周年実行委員会を設立致しました。これにより愈々周年事業にも取り組んで参ります。皆様方にはこれよりも倍旧の御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

行っており、植樹第二段階として苗木成木を含め約四十本を植樹し現在育成に努めている。当初は順調であったが、昨夏の猛暑の影響により数本が枯れてしまった。さらに今年二月の観測史上例のない大雪によりほとんどの木で枝折れが目立つなど、改めて育成の大変さや難しさというものを痛感している。今後新たに植樹を行うとともに、苗木の追加購入やご寄進いただいた

た成木の育成に、より一層注意深く努めて行きたいと思う。

また、神社本庁より助成として多数の教化用小冊子のご提供をいただいている。これらは例祭等の参列者他ご祈願ご祈禱での昇殿参拝者に授与品とともにお配りし、神札御守等の授与者にも随時お配りしている。さらに子供向け冊子は、祭典時等地元子供クラブを通じて子供神輿参加者に配布したり、七五三などの参拝者に授与品としてお配りするほか、御守等の授与者にも随時配布している。今のところはつきりとした効果は感じられないが「日常生活で役立つ」との声も聞かれるようになり、少しずつではあるが次第に氏子の中にも浸透していると思う。仕上げの年となる三年目に向けて、両事業を合わせ、振興対策事業として着実に活動を進めて行きたいと思う。



支 部 だ よ り

甲府支部

神職総代会合同初会

支部長 小 山 利 行

甲府支部神職総代会合同初会が去る二月五日にベルクラシック甲府を会場に、参加者百余名を集め開かれた。神宮大麻頒布に永年奉仕された個人・団体と優良奉仕者（計十六組）に表彰状

峡南支部

春の神職氏子合同研修の旅

支部長 市 川 行 治

三月一日、峡南支部恒例の『春の神職氏子合同研修の旅』に出発しました。

参加者は七十三名、目的地は秋葉山本宮秋葉神社です。出発時は小雨でしたが、現地では曇り、細い林道を大型バスで登った先に立派なお社が見えてきました。

正式参拝のあと河村宮司に御挨拶と神社のご説明を受け、齋



が授与された。又、次の第六十三回神宮式年遷宮に向けて、支部として資金を積み立てるべく、神宮大麻の神徳宣揚費の一部を蓄積して行くことが承認され、本年度分として約六十七万円が報告された。十三年後に予定される式年遷宮募財開始の時点で、約一千万円が確保される見込みである。

館で昼食を戴き神社を後に致しました。河村宮司を始め、当日お世話下さった職員の皆様から感謝申し上げます。

峡中支部

総代会研修旅行

支部長 齋 藤 實

峡中支部総代会研修旅行が去る三月二十七日、久能山東照宮に四十五名の参加のもと行われた。バスは五十二号線を富士川沿いに走り、南下するほど木々の若芽の景色が広がる。新東名高速の清水ICから日本平へ、東照宮を結ぶロープウェイは駿河湾と険しい屏風谷を眺み進む、眼下はもみじが芽吹き桜も三日前に開花し寒桜は既に実をつけ春風を肌で感じながら向か

峡北支部

神職神社総代会新年合同会議

支部長 森 越 義 建

峡北支部は、去る一月二十五日韭崎市の清水屋に於いて、神職神社総代会新年合同会議が、根津神社庁長、中込総代会長の臨席を賜り、支部内神職神社総代会等約五十名程が参集し開催さ

う。社頭にて仁科禰宜様に迎えて戴き案内を終えた後、正式参拝を行う。平成二十一年に平成の大修復が終わり江戸時代の初期を彷彿したような権現造りが完成、平成二十二年には拝殿また、石の間、本殿は国宝に指定された。武田信玄が築いた久能城の跡地に東照宮が築かれ徳川家康の武田信玄への追慕のようなものを感じながら徳川家康の御廟所と宝物殿を参観、来年は御鎮座四百年祭が斎行されることで御祝が続く東照宮であった。その後、焼津さかなセンターにて昼食、いちご狩りを満喫し帰路についた。

れた。この合同会議は、年度定時総会の他に、年末年始の二度に亘り開催されるもので、年末は長坂町で「二年詣安全参拝準備」「大麻頒布」を議題に、年始は「神社庁神殿例祭」「新穀感謝祭参拝旅行」を議題に毎年開催し、神職総代との意思疎通を計り、重ねて種々に協力をお願いしている合同会議である。

今後の予定

祭典日程

○平成二十六年年度
山梨県神社関係者大会

平成二十六年度山梨県神社関係者大会が、左記の日程で開催が決められました。ご参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

一、日時

平成二十六年十月二十四日(金)

一、場所

コラニー文化ホール

(山梨県民文化ホール) 大ホール

一、内容

第一部 神宮大麻暦頒布始祭

第二部 式典

第三部 清興

○第三回神社検定(神道文化検定)

神社検定は神社が好きなた方、日本をもっと知りたい方のための検定です。毎年テーマを変えて行われる神社検定は神社本庁監修のもと、より多くの方々に神道や神社についての正しい知識を学んでいただく検定です。

記

一、日時

平成二十六年六月二十九日(日)

【参級】 午後一時～午後二時二十分

【式級】(壹級)

午後三時二十分～午後五時

一、場所

山梨県神社庁

一、受験資格

制限はございません。参級と式級は併願可能です。

壹級は式級合格者のみ受験可能です。

一、合格基準

参級・式級・壹級とも一〇〇問中

七〇問以上の正解

一、申込期間

平成二十六年五月十二日(月)まで

一、受験料

【参級】 四、九〇〇円

【式級】 五、九〇〇円

【壹級】 六、九〇〇円

参級・式級併願割引九、七〇〇円

お問い合わせ先

神社検定事務局

〇三十三三三三三四八〇八



4・21 御岳金櫻神社春季大祭(一・二日)

富士河口湖町白山神社春季大祭

4・25 山中湖村平野天神社御湯花祭 河口

浅間神社例大祭(孫見祭) 勝山富

士御室浅間神社奉例大祭(はな祭り)

4・27 北杜市須玉町比志神社例祭 猿橋八

幡神社例祭

4・28 甲斐市中下条松尾神社前夜祭

4・29 山縣神社神徳顕彰祭 甲斐市中下条

松尾神社例祭 北杜市高根町船形神

社例大祭(祈年祭) 北杜市高根町

熱那神社春祭

勝山富士御室浅間神社流鏝馬祭 大

月市駒橋三嶋神社春祭 韮崎市若宮

八幡宮春祭(祈年祭)

5・3 稲積神社正木祭例大祭(一・五日)

南アルプス市高尾穂見神社例大祭

忍草浅間神社例祭(春大祭) 甲府

市宮原宇波刀神社春例祭

5・4 玉諸神社梅之折枝祭

5・5 山梨市大石神社例祭 山梨神社つ

つじ祭 身延町西嶋若宮八幡神社奥

沢の祭 須玉町若神子諏訪神社祈年

祭 北口本宮富士浅間神社初申祭

都留市石船神社春祭

5・6 市川大門町一宮浅間神社つじ祭

5・9 大泉町逸見神社例大祭

5・11 甲斐市富竹新田神明神社例祭

5・16 甲斐一宮浅間神社梅折枝神事

5・17 本栖山神社例祭(公卿行列)

5・18 下部熊野大神社奉例大祭

6・9 忍草浅間神社重要文化財指定記念

祭、稲積神社御田植祭

6・28 甲府市中央甲斐神社大祓祭

6・30 穴切大神社夏越大祓 甲府市宮前町

八幡神社みそぎ祭 甲府市東光寺山

八幡神社みそぎ祭 酒折宮夏越大祓

南アルプス市落合八王子社禊祭 南

アルプス市吉田諏訪神社例大祭(禊

祭) 上於曾菅田天神社夏越大祓 弓削

神社大祓祭

7・1 北口本宮富士浅間神社富士山開山祭

富士山小御獄神社富士山夏山開山祭

7・7 山梨市下栗原大宮五所大神水防祭

7・12 甲府市住吉神社夏例祭(田植祭)

7・13 大月市葛野御嶽神社例大祭 都留市

田野倉三嶋神社午頭天皇祭

7・15 市川三郷町宮原浅間神社祇園祭 甲

斐市島上条八幡神社例大祭(祇園祭)

山中湖村平野天神社天王祭

7・16 境川熊野神社夏例祭

7・17 大嶽山那賀都神社甘酒祭(一・八日)

7・20 大月市七保町下和田春日神社例祭



社と伝統芸能（西嶋神楽）

若宮八幡神社 宮司 望 月 久 男

○NHKホールが高天原に

平成二十六年二月二十三日（日）午後五時頃「東京NHKホール」が一瞬にして神代の昔にかえり滑らかな高天原のようなたたずまいに変わりました。うっとりとして、四百年前から伝えられた笛の音に三、五〇〇人の心が引きこまれてしまいました。

これは、文化庁やNHKなどの企画による「地域伝統芸能まつり」（NHKホール）に全国十一の団体に選ばれ出演した。身延町西嶋若宮八幡神社所属「西嶋雅楽」（山梨県指定無形民俗文化財 楽団長 佐野 力）の「巫女・太刀の舞」、「神楽・天の岩戸の儀」を拝観した人の感想でした。

○継続は力なり

思いがけず、山梨県として「古事記神話神楽」をNHKホールで上演するのは初めてのこと。昨年七月お話を受けて約半年、神楽団はもとより、神社・氏子総代・身延町の西嶋区が一

体となって、その誇りを胸にがんばりました。二百年ぶりという記録的な大雪にもめげず、老若男女が団結して、練習にはげんだ成果は会場をつつむ大きな拍手と、三月十五日日テレで全国放映された「姿」地域活性化の大きな力となり、後継者育成の神社と神楽の将来へ大きな宝物となることでしょう。

（写真は「天宇受売命の舞」）

表紙写真説明

「どっこいしよの正ノ木さんは五月三日」と親しまれている「正ノ木祭」は稲積神社の例大祭。ゴールデンウィーク中四日間にも及び、植木商・露店商は二五〇店以上が来店。御神徳は、当社の本宮である伏見稲荷信仰として「商売繁昌・飲食業繁栄」正ノ木稲荷の信仰として「衣・食・住を司る生活の守護神」と崇められている。